

ISDN環境を快適にする

Photo : Nakamura Tohru

ダイアルアップルーター 購入ガイド

これまでの「ダイアルアップルーター選び」はそのネットワーク機能に重きを置いて評価してきた。しかし、ルーターの低価格化により、ルーター1台でネットワーク環境から電話や通信などのISDN環境までをカバーできるバランスの取れた機能が求められる時代に突入した。そこで、今回はISDN環境を快適にするためのルーターのISDN機能にスポットを当ててみた。

梅垣まさひろ

高機能、低価格化でTAに近づく ダイアルアップルーター市場

昨年11月号では、ダイアルアップルーターの低価格化が進み、「TAとの区別が曖昧になるほど」と指摘した。その後価格はさらに坂道を転がり続け、平均で4万円台後半だった実売価格は、今回の調査では1万円ダウンの3万円台後半という恐るべき値下げとなっていた。こうなると、「TAでインターネットをしていたユーザーが、より快適な通信を求めてルーターを購入する」という前提でルーターを評価するわけにはいかない。TAを購入することなくいきなりルーターを求めるユーザーが確実に出現し始めているからだ。これまで「インターネットにより快適にアクセスするためのダイアルアップルーター選び」という視点を常に念頭に置いてきたが、これからはISDNの電話というインフラ全体を支える機器としてもルーターを厳しく

見ていく必要があるのだ。

このような価格下落にもかかわらず、メーカーは機能を落とすわけにはいかない。そこで、性能などユーザーから見にくい部分を切り詰めているのではないかと考えていた。しかし、今回のテストでわかったことは、おおざっぱに言えばルーターは機能も性能も落とさずに、価格だけを下げているということだ。TAに差を付けられていたアナログ機能も、追い付いたとは言えないが、かなりのレベルに達していることは確かである。

次回このProduct Showcaseでルーターを扱うときには、TAの時代は完全に終わったと宣言しているかもしれない。ISDNなら、初めからダイアルアップルーターを買う時代が到来したのだ。



基本機能をフル装備した 一步先行くダイヤルアップルーター選び

ISDN機能を評価する前に、まずルーター選びで必須の「基本機能」に触れておこう。以前に増してルーターのISDN機能が重視されるようになった。なぜならルーターの基本機能をクリアしていなければ、一番大切なインターネットアクセスの快適さを得ることができないからだ。

基本機能が大前提

WWWブラウザ設定から課金制御までプライベートで、あるいはSOHOオフィスでインターネットにアクセスする際に必要な機能はもうあらかた出尽くしている。端末型ダイヤルアップ接続で必須のNAT機能に始まり、回線を通信データ量によって調整するスループットBOD機能、電話がかかってきたら自動的に回線を明け渡すリソースBOD、それに異常課金を監視する機能など、ダイヤルアップ接続環境にはツキモノと言ってもいいISDN、ルーター機能の数々だ。加えて、IPアドレスの管理を容易にし、パソコン側の設定を免除してくれるDHCPサーバー機能やProxyDNS機能なども、今や必需品と言えるだろう。

DSUやS/T点、ハブも常識

ハード面から見ても、DSUの内蔵、DSU切り離しや回線の極性反転機能は必須機能で、なかにはこれらをディップスイッチで設定するのではなく、自動設定を採用するものが現れている。S/T点もおおむね2ポートが標準で、アナログポートは2つでは少なく3ポート以上がもはや常識だ。ナンバーディスプレイ機能やイ

ーサネットハブ機能も標準装備が当たり前。別の見方で言えば、ユーザーが求めてきたこれらの「ルーター標準」の機能を持たない機種は、今日までに進化のふるいにかけられ、ことごとく脱落していったということなのだ。

まだ標準とは言えない機能に「液晶ディスプレイ表示」と「操作ボタン」があるが、これらはTA市場でも徐々に必須機能という位置付けに変わってきており、これらを採用するルーターも、少しずつ現れている。

独自の新機能

TA機能は初心者の安心保険

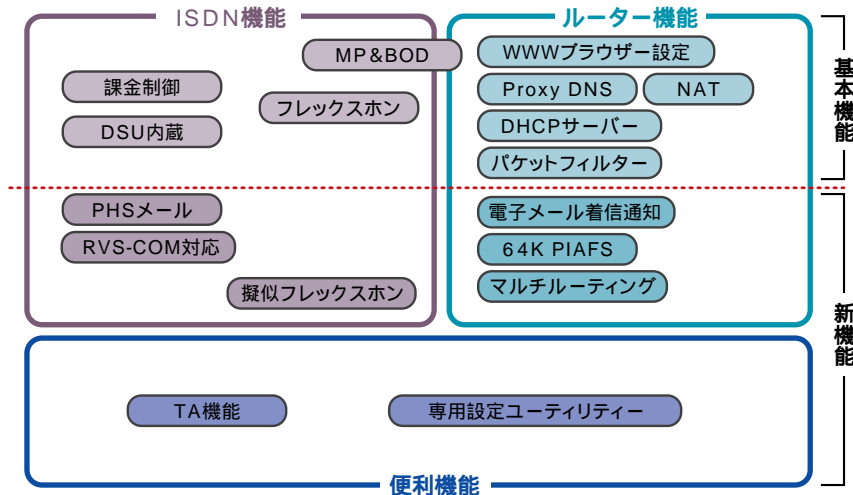
シリアルポートで接続するとTAとして使えるいわゆる「TA機能」をサポートするルーターが今回の8機種中7機種と群を抜いて増えている。購入後とりあえずTAとして使っておいて、パソコンが2台に増えたらルーターとして活用する、ルーターの設定は難しいのでとりあえずTAとして使って慣れる、ルーターではうまく動かないネットワークゲームやマイクロソフトのNetMeetingなどを使う場合にTAに切り替えるといった柔軟な利用方法が、TA機能をサポートすることで可能になるからだ。Net

Vehicle-H30の「仮想ダイヤルアップアダプタ」は特にユニークだ。ウィンドウズ98標準の「仮想ダイヤルアップアダプタ」を使うと、ダイヤルアップルーターがTAのように使えてしまう便利な機能である。シリアルポートのないNetVehicle-H30ならではのワザだ。

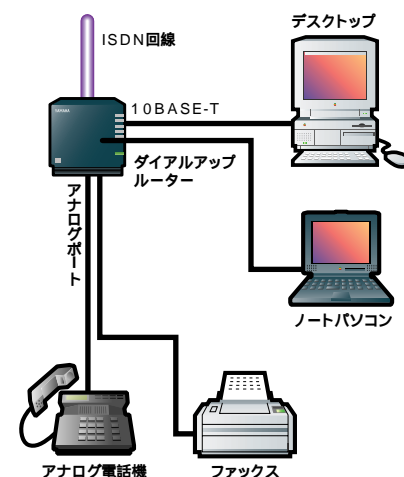
小ワザの便利機能が満載

ワザと言えば、MN128-SOHO SL11のPHSメール機能が小ワザながらかなりおもしろい。ルーターでPHSメールが送受信できる機能だ。電子メール着信通知機能も、フィルターを仕込むことで、必要なメールが来たときにだけ通知することが可能だ。また、おもにオフィスで使われる64K PIAFSへの対応も見逃せない。ルーターを使ったりリモートアクセス環境を構築する場合には、64K PIAFSによる着信機能はぜひとも使いたい機能だ。電話機能では、MUCHO-Eの追っかけ転送は、2つの転送先に順番に転送してくれるし、ComstarzRouterでは着信音を鳴らさないサイレント着信が可能。また、NetCruzの極性反転やDSUの自動オンオフ機能も設定の煩わしさがなくて便利だ。これらの機能はなくてもすぐには困らないものばかりだが、あればちょっと便利な機能だ。

ダイヤルアップルーターの機能分布図



ダイヤルアップルーター接続図





ISDN環境を快適にするルーター選びの3つのポイント

TA + ダイアルアップルーターで使うのならともかく、ルーターだけでISDN環境のすべてをまかなうということになれば、ルーターとしての機能や性能だけでは選べない。そこで、ルーターが持つ電話機能を中心に、選択のための3つのポイントを提案する。

1 電話機能で選ぶ

- ① アナログポート数
- ② ナンバーディスプレイ
- ③ 疑似着信転送
- ④ 疑似なりわけ着信

基本はあくまでもアナログポートだ。ルーターにどんな機能があるのかを考える前に、「何が必要になるのか」の洗い出しから始めよう。まず、何はさておきアナログポートの数からだ。たいいていルーターではブランチ接続が許されていないから、ポートの数が必要なければどうにもならない。一般家庭なら、電話機とファックスあるいは電話2台というのが標準的だろうから2ポートが最低ラインだ。だが、将来的な拡張を考えると3ポートは欲しい。もちろん、TAを持っている場合にはそちらを利用して構わないが、ルーターだけでISDN環境をまかなう場合はアナログポートの数をシビアに見ておかないと、結局TAを別途購入することになりかねない。

また、最近のナンバーディスプレイ対応電話機を利用するのであれば、アナログポートがナンバーディスプレイに対応していないと宝の持ち腐れだ。ルーター本体に発信者番号を表示できる液晶ディスプレイがなかったり、なりわけなどの発信者番号を利用した機能がなかったりしても、それらの機能が電話機のほうでサ

ポートされていればいいわけだ。その点では、現状で対応する電話機を持っていない場合、今後のために選択しておきたい機能だと言える。

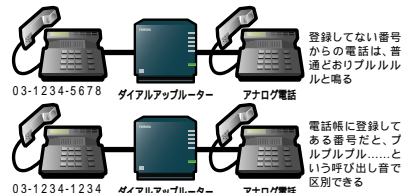
着信転送から始めよう

次に、「いつでもどこでも電話がかかってきたらすぐにいられる」を実現する方法を考えよう。手取り早いのは携帯電話。でも、外にいるときに自宅にかかってきてしまった電話はどうするか。帰宅後に留守電のメッセージを聞いたのでは遅い。少なくとも仕事の電話や大事な人からの電話を逃したくない人には、着信転送の利用をおすすめしたい。

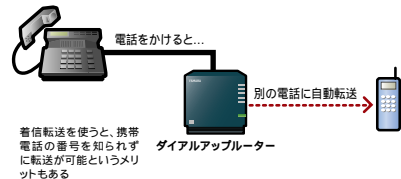
着信転送にはフレックスホンの機能、INSボイスワープ、疑似着信転送などがあるが、設定の自由度が高いのはやはりルーターだけで実現できる疑似機能だ。これらは、それぞれの機能が少しずつ違うので、自分に合った着信転送機能を使うといい。また、特定の相手からの電話で呼び出し音を変えてくれる「なりわけ」も便利な機能の1つだ。

ナンバーディスプレイはアナログポートでの対応

疑似なりわけ着信



疑似着信転送



	① アナログ ポート数	② ナンバ ーディ スプレ イ	③ 疑似 着信転 送	④ 疑似 なりわ け
MN128-SOHO SL11	3		×	
NetVolante RTA50i	3			
Comstarz Router	4			
NetVehicle-H30	2		×	
NetCruz NC601	3		×	×
AtermIR450/D	3		×	×
MUCHO-E	3			
CentreCOM AR100	2	×	×	

電話機能、やっぱりTAにはかなわない？

結論から言ってしまうと、やはりTAの進化はダテじゃない。ダイアルアップルーターがインターネット接続の快適さを追求している間に、TAは電話環境を徹底して追求するという、まさに生き残りかけた進化の道をたどっていたのだ。残念ながら、圧倒的多数のTAにルーターはまだ及ばない。たとえば、NECのAtermIT75(写真上)を見てみよう。アナログポートはブランチ接続が可能で3ポート×3の合計9台が接続できる。着信転送でも、フレックスホン、INSボイスワープに加え、独自の疑似着信転送機能を持つ。疑似着信

転送では、識別着信機能と合わせて「特定の相手の電話だけを転送する」という使い方が可能だ。また、TA本体の「でかけるボタン(写真下)を押すだけで転送が設定される。さすがにこれだけの機能を持つルーターは今のところほかにはない。もちろん、だからと言って悲観することはない。ルーターの進化はまだまだ続くはずだ。今すぐどうなるとは言えないが、AtermIT75とAtermIR450を生み出したのは共にNECだ。きっとやってくれるに違いない。そして他メーカーも指をくわえて眺めているはずはないのである。



AtermIT75
NEC
34,800円
URL <http://aterm.cplaza.ne.jp/>



「でかけるボタン」は着信転送だけでなく、家にかかってきた電話番号を携帯電話などに通知することもできる。

2 「簡単」で選ぶ

- ① 液晶ディスプレイ
- ② 設定の容易さ
- ⑤ サポートの安心度
- ③ 電話機で設定
- ④ TA機能

液晶ディスプレイは「簡単」の証

これからISDNに加入しようという人にとって、「簡単」という選択ポイントも重要な意味を持つ。どんなに高性能なダイヤルアップルーターだろうが「設定できなければ電話機をつなぐタダの箱」でしかないからだ。それでもルーターはブラックボックスで、「中身は複雑なので説明できません」というようなものだった。そういう意味では、ルーターが動いていることをひと目で確認できる液晶ディスプレイがあるとやはり安心だ。今、1Bなのか2Bでつながっているのか、なぜうまくつながらないのか、そんな情報を簡潔に提供してくれるディスプレイは、初心者には羅針盤とも言える存在だ。

設定も「簡単」がうれしい

WWWブラウザによる設定はすでに常識となった。だが、ここにきてさらにもう一歩設定を簡単にする必要に迫られている。というのも、これからはネットワーク初心者がダイヤルアップルーターを購入する時代だからだ。WWWブラウザによる設定はそれ以前にパソコンのネットワーク設定が正しく行われている必要がある。MN128-SOHO SL11の「設定らくだ」やAtermIR450の「らくらくウィザード」などの

専用ツールでは、シリアルポートを使って設定することで、パソコン側のネットワーク設定なども含めてすべての面倒を見てくれる。これなら、ネットワーク設定に不安がある初心者も安心だ。また、ダイヤルインなど基本的な設定が電話機からできるかどうかもポイント。ネットワークがうまく動かさなくても、もっと言えば、パソコンがなくても電話機から設定できれば最低限の電話としての機能は使えるからだ。

TA機能で面倒な設定はパス

ダイヤルアップルーターの設定がうまくいかないとき、TA機能は設定の安心保険として機能する。もちろん、ネットワークゲームを楽しむ場合やNTTの「ええぞう128」につなぐ場合など、ルーターでも不可能ではないが、設定が面倒というケースでは、TA機能があれば簡単に接続して利用できる。また、複数のプロバイダーを利用する「マルチルーティング」機能がないルーターでも、インターネット接続はルーターで、会社のサーバーにはTA機能でリモートアクセス接続するといった使い分けができる。TAはおまけ機能と思われているフシもあるが、いろいろなケースで使える可能性を秘めているものなのだ。



AtermIR450/Dでらくらくウィザードを使って設定。TA機能もアナログも全部設定できてしまう。



NetCruzの液晶ディスプレイは、発信履歴の確認や電話機能の設定なども可能。

	① 液晶 ディスプレイ	② 設定の 容易さ	③ 電話機で 設定	④ TA機能
MN128-SOHO SL11				
NetVolante RTA50i	×			
Comstarz Router				
NetVehicle-H30	×		×	
NetCruz NC601			×	
AtermIR450/D				
MUCHO-E				
CentreCOM AR100	×		×	×

メーカーのウェブサイトから サポート状況をつかむコツ

購入時にけっこう気になるのがメーカーのサポート。うまく動かない、どうも変だというときにメーカーがどうサポートしてくれるかは、設定がちょっと難しいダイヤルアップルーターだけに気になるポイントだ。ただ、これを見極めるのはなかなか難しい。マニュアルの充実度、サポート電話のわかりやすさなどももちろん大事だが、「バグがあっても直してくれるのか」、「アップグレードで新しい機能を使えるのか」、「細かな情報をどう提供して

くれるのか」といった点が一番気になるポイントだろう。そんな場合は、そのメーカーのウェブサイトを見てみるといい。過去のファームウェアアップデートの状況をはじめ、設定サンプルや機能の説明、オンラインマニュアルの有無、トラブル解決には欠かせないユーザーのメーリングリストなどが掲載されている。ウェブサイトを見ていけばそのメーカーがサポートにどれだけ力を入れているかが見えてくるはずだ。



ヤマハのNetVolanteのウェブサイト。機能が豊富なぶん、情報量もハンパじゃない。プロも納得するサポート体制があることは一目瞭然だ。



3 便利な機能で選ぶ

- ① 課金制御
- ② 電子メール着信通知
- ③ PHSメール
- ④ RVS-COM対応
- ⑤ マルチルーティング

課金制限機能でコスト削減

接続料金や時間を制限する機能は、ダイヤルアップルーターを使ったアクセスでは必須の機能になった。オフィスでの使いすぎを防止するのももちろんだが、個人でも快適さに溺れてついつい使いすぎになりがち。NTTの請求書を見て呆然とする前に、課金制限はしておいたほうがいい。また、電子メール着信通知も、上手に使えると無駄な接続を減らす効果が期待できるから、併用するといっそう効果的だ。特に、すべてのプロバイダーに対応できるPOP方式は、自動ダイヤルアップが可能なルーターならではの機能で、TAにはまねのできない便利さだ。

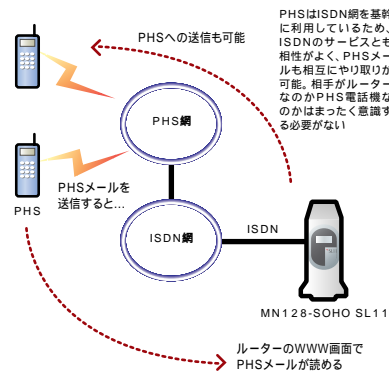
PHSメールは使い方次第

PHSメールは今のところMN128-SOHO SL11にしかない機能だが、使いようによってはなかなか便利だ。たとえば、オフィスで全員にポケベル代わりにPHSを持たせてしまえば、いつでも呼び出しがかけられるし、どうしても電話できないときは、PHSメールでオフィスにさっとメールを投げればいい。いちいち電話をかけるよりも、コストがかからない方法だ。また、電子メール着信通知をPHSメールで行えば、どこにいてもメールの到着がすぐにわかる。

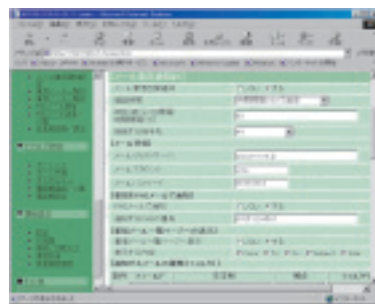
加速する便利機能

アクセスしたい相手のドメインによって複数のプロバイダーを使い分けられるマルチルーティング機能、ルーターだけでファクスの送受信が可能なRVS-COMへの対応、ちょっとしたメッセージの交換ができる掲示板機能、ネットワークを上手に管理できる簡易DNS機能など、パーソナルとSOHO環境を徹底的にサポートする機能には枚挙がない。ダイヤルアップルーターは、もはや単なるネットワーク機器ではなく、ISDN環境からネットワークの統合管理まで小規模ネットワークをオールインワンでサポートする多機能機なのだ。

PHSメールのしくみ



AtermIR450/Dのメール着信ランプ。



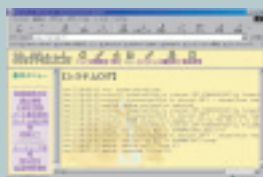
MN128-SOHO SL11のメール着信通知設定画面。細かな設定が可能で、通知するメールを絞り込むフィルターも完備する。

	①	②	③	④	⑤
	課金制御	電子メール着信通知	PHSメール	RVS-COM対応	マルチルーティング
MN128-SOHO SL11					
NetVolante RTA50i					x
Comstarz Router			x		
NetVehicle-H30			x	x	
NetCruz NC601	x	x	x	x	x
AtermIR450/D	x		x	x	
MUCHO-E		x	x	x	x
CentreCOM AR100			x	x	x

将来を考えたダイヤルアップルーターのチェックポイント

「今、ISDNでインターネットが使えればそれでいい」、そういう投げやりな態度には賛成できない。最初はそう思っていたけど、ダイヤルアップルーターのおもしろさがわかってくるほどに、いろいろなことを試してみたいくなるものだからだ。自宅のパソコンに出先からリモートアクセスする、次にはLinuxを導入する、そしてこの際OCNエコノミーに乗り換える……という具合に、やはり快適な環境を次々と望むのが人間の性。こういった環境の変化に対応するには、今使わない機能であっても将来力不足にならないように選択しておくべきだ。オフィスに導入

する場合は、特に将来性が大事だ。たとえば、64K PIAFSでの着信機能やログを管理するsyslog機能、またUNIXサーバーの認証を利用するためのRADIUSなど、すぐに使わない機能であっても、将来を考えると付いていてほしい機能はやはり揃っているのに越したことはない。



NetVehicle-H30のシステムログ画面。もちろん、UNIXなどのsyslogdでログを管理することもできる。アナログのログ情報もすべて残せる。

64K PIAFSの使い道

ダイヤルアップルーターの64K PIAFS対応が進んでいる。出先から自宅や会社のネットワークにPHSを使ってリモート接続する場合、従来の32K PIAFSではスピードに不満だったはずだ。64K PIAFSでは、ISDNと同等の64Kbpsの速度が出せるようになった。今のところ、モバイル環境でこの64Kbpsが出せるのはNTTドコモの64K PIAFSしかなく、モバイルユーザーにはうれしい速度だ。また、PHSならではの通信料の安さもポイント。インターネットからリモートアクセスまで、64K PIAFS対応のPHSさえあれば、高速モバイル環境がすぐ手に入るということなのだ。



最新ダイアルアップルーターラインアップ

今回選んだ8機種は「どの店でも目につく売れ線のダイアルアップルーターを」という選択方法で選んだものだ。実売価格の低いものはやや機能が劣る傾向はあるが、どれを選んでもしっかり使えるものばかりだ。

個人からオフィスまで幅広く対応できる

MN128-SOHO SL11

実売 39,800円

MN128-SOHO SL11の根強い人気の秘密は、徹底して個人ユーザーが必要とする機能をサポートしてきたことだ。ProxyDNS、簡易DNS機能やTA機能の内蔵、シリアルポートに接続したパソコンもネットワーク化できるLAS機能など、MN128-SOHOシリーズは今やデファクトスタンダードとなった機能を進取的に取り入れてきた。ISDN機能でも、短縮ダイヤルを128か所まで登録でき、WWWブラウザ画面の電話帳から電話をかけたり、なりわけや着信拒否を設定したりできる。また、PHSメールを送受信するだけでなく、掲示板と連動するといった使い方や、メール着信通知機能ではFromアドレスなどで通知するかどうかを選択できるフィルターを備えるなど、ほかのダイアルアップルーターには

ない便利な機能や遊び心にあふれた機能がふんだんに盛り込まれている。また、syslog、RADIUS、PPTPによるVPN機能など、オフィスで必要とされる機能も着実にサポートし、個人からオフィスまでバランスよく対応できる万能ルーターと言っていいだろう。

色分けされたポートで、配線も簡単。わかりやすさをアピールする。



(1つはブランチ)

メーカー名：株式会社エヌ・ティ・ティ・エムイー

標準価格：49,800円

サイズ：W70 x D191 x H176(mm)

問い合わせ：0120-128-037

URL：<http://www.ntt-me.co.jp/mn128/>

<http://www.bug.co.jp/mn128/>



プロも納得する機能と性能

NetVolante RTA50i

実売 36,800円

NetVolanteはヤマハの上位ダイアルアップルーターを個人、SOHO向けに使いやすとした高機能機だ。RT103iなどの上位機種から削減された機能はVPN対応などほんのわずかで、逆にアナログポートやTA機能、メール着信通知機能など機能アップと言える面も多い。プロに評価されてきたRTシリーズと同等の機能が使えることを考えると、コストパフォーマンスの高さは抜群だ。ISDN機能でも独自の着信転送機能やなりわけにも対応するなど、ISDNメーカーヤマハの本領を発揮している。液晶表示がない、設定がやや難しいなど、初心者には使いにくい面もあるが「使いこなす楽しみ」を持ったルーターであると考えれば、十分に選択肢となるだろう。また、デザインもヤマハならではのスクエアーブ

ラックで、オーディオ機器を思わせるデザインだ。パーソナルはもちろんだが、専用線環境で使う機能の豊富さを考えると、将来的にOCNエコミーなどの専用線環境に乗り換えたいと考えるユーザーにぜひ使いこなしてほしいルーターだ。



イーサネットポート、DTEポート、アナログ関係、ISDN関係のポートなどが縦3列で並ぶ。



メーカー名：ヤマハ株式会社

標準価格：49,800円

サイズ：W104 x D130 x H131(mm)

問い合わせ：0120-808-384

URL：<http://netvolante.rpro.yamaha.co.jp/>





初めてでも安心のパーソナルダイヤルアップルーター

実売 36,800円

Comstarz Router(CMZ-RT-DS)

Comstarz Routerは液晶ディスプレイと操作ボタンを持ち、7つの主要プロバイダーのアクセスポイントなどの情報も登録済みで、簡便性重視の「パーソナルルーター」だ。アナログポートはブランチ接続ながら2系統×2の合計4ポートを持つ。ISDN機能でもINSネット64で提供されるフレックスホン機能に加え、豊富な擬似フレックスホン機能を持つ。ルーター機能では、マルチルーティング、テレホーダイ対応、DHCPサーバー機能など基本が押さえられているうえ、掲

示板や行き先表示機能などSOHOでちょっと便利な機能も備える。TA機能も初心者にはうれしい。専用線やオフィス環境で欲しい機能は少なめだが、個人で使うISDN環境では機能と設定のわかりやすさでトップクラスだ。



アナログポート4つはほかにはない特徴。イーサネットポートも4つ、S/T点も2つで背面はぎっしりだ。



本体前面にイーサネットポートを1つ持つ。

TA機能	64K PIAFS 対応	電子メール 着信通知	アナログポート数 4	イーサネットポート数 5
------	--------------	------------	------------	--------------

(2つはブランチ×1つは前面)

メーカー名	: 日本電気株式会社
価格	: 49,800円
サイズ	: W220 x D200 x H60 (mm)
問い合わせ	: 0120-498-563
URL	: http://ccsd.biglobe.ne.jp/comstarz/router/

Product Showcase

マルチTA機能でネットワークゲームやチャットも快適

実売 43,800円

NetVehicle-H30

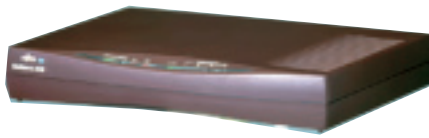
NetVehicleシリーズは従来もゲームやオンラインコミュニケーションツールへの対応に優れたダイヤルアップルーターだったが、NetVehicle-H30の新しいファームウェア(7月リリース予定)からは、「仮想ダイヤルアップアダプタ」を使った仮想TAとして利用することが可能になった。LANを経由するしくみだが、ダイヤルアップ環境と同等になるためNATを介さないインターネット

アクセスが可能になる。これなら、ネットワークゲームなども面倒な設定なしで簡単に楽しめる。アナログポートは2つと標準的で、ISDN機能もごく一般的な内容だが、ルーター機能、ネットワーク管理機能が優れているので、ISDNを使っても快適なインターネットアクセスを望む個人ユーザーなら、配慮の行き届いた機能に満足するはずだ。また、局側給電DSUの搭載は本機だけ。

TA機能	64K PIAFS 対応	電子メール 着信通知	アナログポート数 2	イーサネットポート数 4
------	--------------	------------	------------	--------------

(Infowebのみ)

メーカー名	: 富士通株式会社
価格	: 59,800円
サイズ	: W278 x D200 x H42 (mm)
問い合わせ	: 0120-89-4321
URL	: http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/Products/telcom/NV/



ごくオーソドックスなルーターらしいポート配列。筐体はやや大きめだ。

フロントポートが便利な多機能ダイヤルアップルーター

実売 39,800円

NetCruz TCD-NC601

NetCruzはフロントの扉を開けると、設定ボタン、S/T端子、アナログポート、イーサネットポートが現れる使い勝手を追求したルーターだ。フロントの3種のポートは、ノートパソコンを使うときに特に便利で、設定ボタンとダイヤルはアナログ機能や短縮ダイヤルなどが設定でき、TA並みに多機能だ。もちろん電話機やWWWブラウザ設定にも対応。DSUの切り替えが自動化されていて、TA機能も内蔵しているので初心者

にも安心だ。アナログポートがナンバーディスプレイに対応しないなどアナログ機能にはやや不満が残るが、この価格でブリッジ機能をサポートしたり、オプションのモジュールで100BASE-TXに対応したりするなど、ほかにはない通好みなルーターに仕上がっている。



左下はイーサネットモジュール。右にはアナログ、ISDN端子などのポートが並ぶ。

TA機能	64K PIAFS 対応	電子メール 着信通知	アナログポート数 3	イーサネットポート数 3
------	--------------	------------	------------	--------------

(1つは前面) (1つは前面)

メーカー名	: テレコムデバイス株式会社
価格	: 68,800円
サイズ	: W105 x D206 x H187.3 (mm)
問い合わせ	: 03-3403-5251
URL	: http://www.tcd.co.jp/



本体前面に設定ボタン、S/T端子、アナログポート、イーサネットポートを持つ。



USBポート搭載でノートパソコンに便利

AtermIR450/D

実売 39,800円

TAでは他を寄せ付けない人気を誇るAtermシリーズ初のダイヤルアップルーターがAterm IR450/Dだ。設定にはお馴染みの「らくらくウィザード」が使えるし、TA機能内蔵のほか、BIGLOBEの電子メール着信通知やUUIメール機能、アナログポートを3つ搭載と、Atermシリーズの基本スペックが生きた設計だ。また、USBポートでもルーターが使えるので、ノートパソコンにはLANカードが不要。ISDN機能ではナンバ

ーディスプレイ対応がポートAのみで、擬似機能も少なく、AtermシリーズのTAほどのパワーがないのは残念。しかし、らくらくウィザードを使うため設定が簡単という点はAtermそのまま、誰でも気軽にルーターを使うことができる。な



USB、TAとして使えるシリアルポート、4ポートイーサネットポートなどが並ぶ。右上はS点ユニットのスポット。



メーカー名	: 日本電気株式会社
価格	: 54,800円
サイズ	: W205 x D158 x H60 (mm)
問い合わせ	: 0120-361-138
URL	: http://aterm.cplaza.ne.jp/

お、本機はDSU内蔵だが、S点ユニットを増設しないとS/T点がない。また、DSUなしのAterm IR450も用意されている。



アナログ機能が充実したパーソナルダイヤルアップルーター

MUCHO-E

6月未発売予定

古河電工からMUCHO-TLの後継となるパーソナル指向のダイヤルアップルーター「MUCHO-E」が発売された。新シリーズはモデムを接続するアナログルーター機能を備えたMUCHO-EX、VPNをサポートしたMUCHO-EVを含め3ライン構成となる。MUCHO-Eシリーズでは、新たに液晶ディスプレイを搭載し、ルーターとしてはまだまだ珍しい発信履歴ボタンを付けるなど、パーソナルユースに配慮した設

計がうれしい。MUCHO-TLでできなかったWWWブラウザ設定にも対応し、追っかけ転送、中継機能などのアナログ機能の強さはそのまま受け継いでいる。また、MUCHO-Eでは新たにTA機能をサポートした。とりあえずTAとして使う。ルーターでは設定の難しいネットワークゲームやICQなどを利用するといった場合にも安心だ。パーソナルユーザーにもおすすめできる機能とパワーを備えた新シリーズが目だ。



メーカー名	: 古河電気工業株式会社
価格	: 49,800円
サイズ	: W60 x D150 x H190 (mm)
問い合わせ	: 03-3286-3116
URL	: http://www.furukawa.co.jp/network/mucho/mucho.html



SOHOユーザー向け低価格ダイヤルアップルーター

CentreCOM AR100

実売 31,800円

CentreCOM AR100はネットワーク機器では老舗のアライドテレシスが今年1月に発売したSOHO向けダイヤルアップルーターだ。同社のネットワーク製品と統一感のあるコンパクトなデザインを採用し、U点をACアダプターに記したのが特徴だ。アナログ機能ではアナログポートがナンバーディスプレイに未対応など、やや弱さは感じるものの、DHCPサーバーやProxyDNS機能、課金リミッターを備えるなどインターネット

トアクセスルーターとしての機能はまったく問題ないレベルだ。なお、近々のアップデートで64K PIAFSへの対応などの機能が強化される予定だ。本機はSOHOオフィスをターゲットに据えて価格を抑えた製品という位置付けた。アナログ機能にこだわらず、低価格を求めるユーザーにおすすめする。



メーカー名	: アライドテレシス株式会社
価格	: 39,800円
サイズ	: W206 x D148 x H30 (mm)
問い合わせ	: 0120-860-442
URL	: http://www.allied-teleis.co.jp/products/product/brouter/ar100/





アップデートで新機能をゲット

今回取り上げた8機種には入っていない旧機種を持っているユーザー、また今回の8機種と同じ機種を持っているのに下の表と機能差があるという人にはアップデートをおすすめする。ダイアルアップルーターはTAに比べて1つの機種が比較的長くサポートされ続けるという特徴がある。たとえば、MN128-SOHOの初代機は発売からすでに2年が経過し、SL10、SL11と進化してきているが、初代機もしっかりサポートが続

いている。最新のファームウェアは今年の4月にリリースされた1.40で、このバージョンで64K PIAFSに対応、マルチダイヤル機能を搭載など、最新機種で採用された機能が旧機種でも一部サポートされているのだ。また、AtermIR450も当初はなかったフィルタリング機能がバージョン2.02で追加されるなど、機能がアップデートされている。ルーターメーカーのウェブサイトをチェックして、最新の機能をゲットしてほしい。



Atermシリーズのウェブサイト。バグ情報、アップデート情報はママにチェックだ。

ダイアルアップルーター機能一覧表

製品名	MN128-SOHO SL11	NetVolante RTA501	Comstarz Router (CMZ-RT-DS)	NetVehicle-H30
メーカー	NTT-ME	ヤマハ	NEC	富士通
標準価格	¥49,800	¥49,800	¥49,800	¥59,800
実勢価格	¥39,800	¥36,800	¥36,800	¥43,800
ユーザーインターフェイス	液晶ディスプレイ 操作ボタン	x x		x x
対応回線	INSネット64 OCNエコノミー 専用線			
ハードウェア	DSU S/T端子 LANポート イーサネットポート	2 2 10BASE-T 3	2 10BASE-T 5(前面に1)	2 10BASE-T 4
アナログ機能	アナログポート数 3(1つはプランチ)	単3アルカリ乾電池 x 8 3	単3アルカリ乾電池 x 8 4(2つはプランチ)	単3アルカリ乾電池 x 8 2
INSネット64機能	ナンバーディスプレイ対応アナログポート ダイヤルイン/グローバル着信 フレックスホン INSボイスワープ INSボイスワープセレクト INSなりわけ		x x	x
独自電話機能	コールウェイティング 着信転送 3着通話 コールバック なりわけ 識別着信	x (切替モードのみ対応) x	x x	x x x
TA機能	シリアルポートLAN機能			(仮想ダイヤルアップアダプタ)
RVS-COM(G3ファックス)対応				x
PHSメール機能		x	x	x
ルーター機能	MP BACP/BAP リソースBOD スループットBOD 課金管理/制限 テレホーダイ対応 無通信監視タイマー ルーティングプロトコル マルチルーティング RADIUS PIAFS着信 NAT パケットフィルター データ圧縮 コールバック 認証	RIP、スタティック (ソースルーティングのみ対応) x x (64K) AutoNAT (NAT、IPマスカレード)	RIP、スタティック x x (64K) NAT、NATe	RIP、スタティック x (64K) マルチNAT
ブリッジ	PAP、CHAP、CallerID	PAP、CHAP、CallerID	PAP、CHAP、CallerID	PAP、CHAP、CallerID
管理機能	DNSフォワーディング 簡易DNS DHCPサーバー DHCPリレー DHCPスタティック設定 syslog メール着信通知 掲示板機能	x x x x x POP方式 x	x x x x POP方式 x	x x x x InfoWebのみ x
電話機能設定	telnet シリアルポート WWWブラウザ 専用ツール 電話機 操作ボタン	x x MNマスター11 x	x x x x	x x x x
ルーター設定	telnet シリアルポート WWWブラウザ 専用ツール	x x 設定らくだ x	x x x x	x x x x
最新ファームウェア(6月9日時点)	1.20	Rev.3.03.29	3.2.11	E22L40
アップデート方法	専用アップデーター	専用アップデーター、tftp	WWWブラウザ	WWWブラウザ
外形寸法(WxDxH mm)	70 x 191 x 176	104 x 130 x 131	220 x 200 x 60	278 x 200 x 42
重量(電池を除く)	約0.8kg	約0.8kg	約1.0kg	約1.0kg

1 TCDD-NC601-01(標準価格¥13,800)を購入すると、3ポートとも100BASE-TX対応となる 2 ダイヤルインでの利用は不可 3 S点ユニットを追加するとS/T端子が2ポートになる 4 バージョンアップで対応予定

Product Showcase







まとめ

あなたにピッタリのルーターはこれだ!

ISDN環境をどうするかという視点で、ダイヤルアップルーター選びについてここまで見てきた。では、実際にどれを選択すればいいのだろうか。まず、どんなユーザーのニーズにも対応可能なのが、ISDNから専用線環境までバランスよく機能を盛り込んだMN128-SOHO SL11とNetVolante RTA50iだ。MN128-SOHO SL11は液晶ディスプレイの使い勝手の良さからどちらかと言えば個人向

きで、NetVolante RTA50iのほうは上級者向きといった特徴はあるが、どんなニーズにも十分にえられる機能と性能を持つ。Net Vehicle-H30はマルチTA機能やゲームのサポートが厚いなど個人ユーザーに便利な機能を持っており、MUCHO-Eもアナログ機能の充実した個人向けルーターだ。AtermIR450とComstarzRouterは、どちらも初心者向き

で、Net Cruz NC601は100BASE-TX対応やブリッジ機能などオフィスネットワーク向きという色彩が強い。また、CentreCOM AR100はSOHOオフィスにターゲットを絞って価格を抑えたルーターだ。このように機種ごとの特徴を押さえつつ、下の一覧表で自分が今どうしても欲しい機能、それに将来のためにキープしておきたい機能をプラスして、自分にピッタリのルーターを見つけ出してほしい。

NetCruz NC601	AtermIR450/D	MUCHO-E	CentreCOM AR100	製品名
				
テレコムデバイス ¥68,800 ¥39,800	NEC ¥54,800 ¥39,800	古河電工 ¥49,800	アライドテレシス ¥39,800 ¥31,800	メーカー標準価格 実勢価格
(3+ダイヤル)	x	(履歴表示など)	x	液晶ディスプレイ 操作ボタン INSネット64 OCNエコノミー 専用線
3 10BASE-T(1) 3(前面に1) 単3アルカリ乾電池 x 8 3(前面に1)	x(3) 10BASE-T、USB 4(10BASE-T)+4(USB) 単3アルカリ乾電池 x 6 3	2 10BASE-T 4 単3アルカリ乾電池 x 6 3(1つはブランチ)	2 10BASE-T 4 (予定:電池BOX) 2 x	DSU S/T端子 LANポート イーサネットポート 停電対策 アナログポート数
(2)	x	x	x	ナンバディスプレイ対応アナログポート ダイヤルイン/グローバル着信 フレックスホン INSボイスワープ INSボイスワープセレクト INSなりわけ コールウェイティング 着信転送 3着通話 コールバック なりわけ 識別着信
x x x x x	x x x x x	x x x x x	x x x x x	独自電話機能
x x x	x x x	x x x	x x x	TA機能 シリアルポートLAN機能 RVS-COM(G3ファックス)対応
x(ログ表示のみ)	x x	x	x	PHSメール機能 ルーター機能
RIP x x (32K) eNAT	x x x x アドバンスドNAT	RIP、スタティック x x (64K) NAT+	RIP、スタティック x x (4) NAT+IP マスカレード	MP BACP/BAP リソースBOD スループットBOD 課金管理/制限 デレホーダイ対応 無通信監視タイマー ルーティングプロトコル マルチルーティング RADIUS PIAFS着信 NAT パケットフィルター データ圧縮 コールバック 認証
VJ、StacLZS	StacLZS	VJ、StacLZS	VJ、StacLZS	
PAP、CHAP	PAP、CHAP	PAP、CHAP、CallerID	PAP、CHAP、CallerID	
x	x	(4) (4)	x	ブリッジ 管理機能
x x x x x	x x x BIGLOBEのみ対応	x x	x POP方式	DNSフォワーディング 簡易DNS DHCPサーバー DHCPリレー DHCPスタティック設定 syslog メール着信通知 掲示板機能
(ATコマンド)	x	x	x	telnet シリアルポート WWWブラウザ
(開発中) x	らくらくコーディネティ/らくらくウィザード	x	x	専用ツール 電話機 操作ボタン
(開発中) 4.0a6 WWWブラウザ(ftp、tftp)、xmodem 105 x 206 x 187.3 約1.4Kg	らくらくコーディネティ/らくらくウィザード 2.02 専用アップデーター 205 x 158 x 60 約0.8Kg	x WWWブラウザ、コマンド操作 60 x 150 x 190 約0.8Kg	x 1.14 WWWブラウザ、tftp 206 x 148 x 30 約0.8Kg	ルーター設定 telnet シリアルポート WWWブラウザ 専用ツール
				最新ファームウェア(6月9日時点) アップデーター方法 外形寸法(WxDxH mm) 重量(電池を除く)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp